

竹内均先生追悼講演 - 地球内部の流れ -

Prof. Hitoshi Takeuchi memorial lecture - convections in the Earth's interior -

木村 龍治[1]

Ryuji Kimura[1]

[1] 放送大学

[1] University of the Air

2004年4月20日、日本を代表する地球物理学者で東京大学名誉教授の竹内均先生がご逝去された。数々の優れた研究業績も然る事ながら、多くの後進を輩出し、地球科学界のみならず、科学界に与えた影響は計り知れない。東京大学退官の後は科学雑誌「ニュートン」を創刊し、わかりやすい科学の普及に努められ、教育界にも多大な影響を与えた。特に、当時まだ珍しかったフルカラー画像を多用した「ニュートン」誌、動く映像を駆使したNHK高校講座は竹内先生の映像に対する優れた先見性を示していると言える。そこで本セッションではヴィジュアル地球科学の先駆者ともいえる竹内均先生を追悼し、その業績と足跡を振り返ることでこれまでの映像の地学を俯瞰し、今後の地球惑星科学分野における映像の役割とその可能性について議論したい。

本講演では、生前の竹内先生とゆかりの深かった木村龍治氏（現放送大学教授）をお招きし、竹内先生の業績の1つであるマントル対流について解説して頂く。竹内先生のその分野の業績としては、地球内部の粘性率の分布を明らかにした Takeuchi and Hasegawa (1965)、その粘性率を元にしたマントル対流の計算を行った Takeuchi and Sakata (1970)、大地震とマントル対流の結びつきを明らかにした Takeuchi and Kanamori (1968) 等が挙げられる。本講演では、竹内先生が映画「日本沈没」で説明されているマントル対流の映像、現在のマントル対流のシミュレーションビデオおよび磁場反転を示す流体核対流のシミュレーションビデオ等も利用し、対流研究における映像の果たした役割とその可能性も同時に議論したい。